



パネルと木の標本が展示されている館内の様子

内山地区に森のミニ博物館がオープン

平成19年に閉校した久田小学校内山分校の校舎を利用してつくられた「森のミニ博物館」が、4月29日オープンしました。

この博物館は、地元内山地区が廃校の有効利用と地元の活性化を目的につくったもので、館内には地元で見られる様々な木の標本約50種と対馬の森や環境を解説したパネルが展示してあります。

同日行われた記念式典で白崎正一区長は「規模は小さいが内山地区全体をフィールドに体験観光も取り入れた立体的な博物館にしたい。対馬南部の観光拠点となるよう頑張りたい」と意気込みを話しました。

森のミニ博物館

〒817-0157 厳原町内山242

見学希望の方は必ずご連絡ください。

090(3204)8948(柚木)

隠れた対馬の名所を巡る

つしま HOT SPOT



女連の立石 たていし 通称たてんね (上県町)

おり、「うなつら」と読めます。

この女連漁港の南側にコンクリートで造られた海岸沿いの歩道があります。それを道なりに進んでいくと5分ほどで風変わりな岩を見ることが出来ます。それが「立石」です。

板状の岩が重なって立つ奇岩で、見る場所によって岩の幅が全く違ってきます。長い間、対馬海峡西水道の波と風雨による浸食で今の形になったようで、地元の方は「たてんね」と呼んでいるそうです。

【お知らせ】

観光交流課では、みなさんからの情報をお待ちしております。「こんなところがあるよ」などの情報がありましたら、ドシドシお寄せください。

対馬市役所観光交流課

0920(53)6111

FAX 0920(53)6122

メールアドレス

asightseeing@city_tsushima.jp

日本には読み方を知らないけれど決して読むことができない地名がいくつかあります。長崎市内の「女の都」もその一つです。「おんなのみやこ」と読んでしまいそうですが「めのと」と読みます。今月は、そんな読み方の難しい対馬のある地区にスポットをあてました。さて「女連」と書いて何と読むでしょうか。ご存じの方も多いと思いますが、漢字だけ見ても「おんなつれ」と読んでしまいます。しかし、これはご存じのと